

平成15年7月10日

サッポロビール株式会社
課税移出(引取)数量報告 平成15年上期分

サッポロビール(株) 広報室

下記の通りご連絡申し上げますので、よろしく御取計ください。

単位:KL、千函、%

<上期計>		本年キリットル	本年大瓶換算	前年比	前年キリットル	前年大瓶換算
ビール	国産	234,904	18,555	▲ 12.0	266,794	21,074
	輸入	2,138	169	3.4	2,068	163
	小計	237,043	18,724	▲ 11.8	268,863	21,237
発泡酒	国産	167,485	13,229	▲ 13.9	194,538	15,366
	輸入	0	0	-	0	0
	小計	167,485	13,229	▲ 13.9	194,538	15,366
ビール+発泡酒 合計		404,528	31,953	▲ 12.7	463,401	36,604

*国産は課税移出、輸入は課税引取り。大瓶換算は1函=12.66%。 *全ての数は表示の1桁下を四捨五入して算出。

*前年比は1函単位の実数から算出しているため、千函・万函単位の本表の表示数からの逆算とは異なることがある。

<ブランド別販売状況>

単位:万函、%

	<上期>			<累計>		
	本年函数	前年比	前年函数	本年函数	前年比	前年函数
黒ラベル	1,414	▲ 16.1	1,686	1,414	▲ 16.1	1,686
エビス	332	▲ 3.0	342	332	▲ 3.0	342
エビス黒	25	-	0	25	-	0
エビス合計	357	4.4	342	357	4.4	342
ギネス	15	5.7	14	15	5.7	14
生搾り	969	▲ 2.6	994	969	▲ 2.6	994
生搾りH&H	111	-	0	111	-	0
生搾り合計	1,080	8.6	994	1,080	8.6	994
フィンガー	0	-	256	0	-	256
きりっと	1	▲ 98.5	96	1	▲ 98.5	96
樽生仕立	61	▲ 57.7	145	61	▲ 57.7	145
鮮烈発泡	71	-	0	71	-	0
のみごたえ	60	-	0	60	-	0

<トピックス>

- 市場動向 : ビールが1割強の減というトレンドから抜け出せない状況下で、それをカバーしてきた発泡酒すら増税のため成長が止まり、ビールテイスト市場はかつてない苦境に立たされたと言えます。
- 当社全般 : 当社ビールは総需要低迷と同様のトレンドで推移しています。当社発泡酒は増税に大きく影響され、加えて新製品の寄与が不十分でした。ビール・発泡酒合計でも1割強の減となりました。下期は、当社主力ブランドで前年水準を超えている「エビス」「生搾り」に加えて、6月新発売の「のみごたえ<生>」や、7月23日再発売の「エビス<黒>」など、数字の上積みを計算できる商品を揃えて巻き返しを図ります。
- 黒ラベル : 昨年同期水準(15.9%減)と変わらないトレンドが続いており、低調なビール総需要の影響を脱することできません。TVCMは“祭りシリーズ”が好評で、着実なブランド構築に貢献しています。
- エビス : 独自のブランド価値でビール総需要を大きく凌駕し、平成5年以來の11年連続シェアアップ達成は確実です。また5月新発売の「エビス<黒>」が人気沸騰のため一時休売となるなど、ブランド価値が向上しており、2品種合計では、主要ビールでは稀少な成長ブランドとなっています。
- ギネス : 昨年の5割増という急成長はW杯といった要因もありましたが、その後も順調に市場定着を果たしています。近年注力してきたアイリッシュパブ展開が奏功してきたと言えます。
- 生搾り : 3年目の生搾りは、3月新発売のハーフ&ハーフを加えたブランド全体で1割近い増加を果たしました。新製品攻勢に負けない生搾りの成長は、今後のブランド構築に強い期待を抱かせます。
- のみごたえ : 6月25日発売。年内計画480万函に対し60万函と順調なスタートを切りました。大麦由来の原料比率67%によるしっかりとした“のみごたえ”が評価されています。

以上